

情報

表現

中学校

高校

総合

情報

外国語

英語

スーパープレゼンテーション  24分

ジャック・アンドレイカ 将来性のある すい臓がん検査方法をティーンが開発

(2013年放送)

この番組の良さ



世に広めるべきアイデアの数々

スーパープレゼンテーションは、毎週さまざまなテーマに関するTED Talk (TEDに関しては2013年度版 P.38参照) を紹介し、マサチューセッツ工科大学メディアラボ所長の伊藤譲一氏が解説を加えた番組です。

プレゼンテーション自体は、TEDのウェブサイトで1900以上の動画として無料で公開されていますが、厳選されたテーマ、見やすい日本語字幕つき、伊藤譲一氏の短いながらも鋭い視点からの解説は、この番組ならではの特典と言えます。

活用も教員のアイデア次第

番組では科学技術、芸術、環境問題…さまざまなテーマが取り上げられています。教科「情報」のプレゼンテーション実習や総合的な学習はもちろん、内容と活用のアイデア次第で、あらゆる教科や、キャリア教育、道徳教育などでも活用できるでしょう。

番組活用のポイント

課題解決能力と実行する意欲

15歳のジャック君は、手遅れになることも少なくないすい臓がんの画期的な検査方法を自ら作り出しました。その執念ともいえる情熱はどこから来るのでしょうか。

「何が問題なのか」、「それをどうすればよいのか」を問い続けたきっかけは、身近な人をすい臓がんで失ったことでした。

彼の研究にとって、生物や化学の体系的な知識が重要だったことはもちろんですが、単に知識習得にとどまらず、自ら社会の問題としてとらえ、問題解決につなげていくには、「意欲」が欠かせません。その意欲は日常のふとしたきっかけや人との関わりの中から生まれてくることが多いかもしれません。

中高生時代の多感な時期は、その後の将来を大きく変える出来事に結びつく可能性があります。彼の発明は、雑誌の記事と授業の内容を結び付けたことで生まれました。生徒が発展的に考え、主体的に行動していく「意欲」のきっかけは、日々の学校での授業や生活体験の中にも潜んでいるといえるのではないのでしょうか。

ネットワークの主体的な活用

彼の発想、発明、行動。そのすべてにインターネットは欠かせませんでした。ただし中高生がインターネットを安全に扱うには、もちろん情報モラル教育が欠かせません。

情報モラルについてはあらゆる教科科目で扱われるべきですが、多くは「あれをしてはだめ、これはあぶない」という指導になりがちです。もはやインターネットが不可欠となっている現代においては、さまざまな場面で安全かつ有効に活用するスキルを身につけなければなりません。危なさを教えるだけでなく、良い使い方を体感させることが、これからの情報モラル教育といえるのではないのでしょうか。